

平成30年度 静岡学園中学校・高等学校外部評価

達成度 A ほぼ達成(8割以上) B 概ね達成(6割以上)
C 変化の兆し(4割以上) D 不十分(4割未満)

学年 教科 分掌	担当	No.	30年度重点目標	外部評価委員 による評価 (A・B・C・D)	外部評価委員の意見及び次年度への提言
学 年	中学部	1	生徒の長所を引き出し、リーダーとしての資質を伸ばす指導を行う。	A	特別活動の充実により、リーダー育成に努めてほしい。 実施されている内容の繰り返しの重要性を関係者一同で再認識し、「継続」の重要性を共有すべきである。 数値目標達成の実現を目指して欲しい。
		2	中学部全体で問題点や課題を共有し、統一性を持った指導や対応をする。	A	3年間の統一した指導を今後も継続して欲しい。 教員が魅力的で、輝いていることが教育の基盤ともいえる。働き方改革を推進しながらも、本質を見失わないようにしてほしい。 担任任せにせず、チームで協議・検討する姿勢は重要。
		3	SGT講座、特別活動を充実させ、広い視野で物事を考え選択する能力を養う。	A	内容は多様化しており、充実が図られている。 生徒に広い世界を見せてあげることが大事である。 PDCAを確実に積み重ね、企画に対して創意工夫を毎年期待したい。
	高校1年	4	生徒が安心して通学できるよう、統一性を持った指導や対応をする。	B	情報共有のコミュニケーションが、常時図れる態勢づくりも求められる。 不登校の問題は様々な要因が絡んでいて難しいが、全職員で統一した指導に焦らず取り組みたい。 生徒事故があったことは残念である。安全への一層の配慮、根絶のマニュアル制定の必要性もある。
		5	学習への能動的な取り組みと学力の伸長を促す指導を行う。	A	生徒が「目標設定」を的確にできる機会を与え、十分に指導をしていくことが望まれる。 偏差値向上にとられすぎないように心掛けてほしい。 生徒一人ひとりに声かけをすることが大事である。
		6	様々な活動に積極的に参加させ、広い視野で物事を捉える能力を養う。	B	授業以外の活動に参加することも、将来の糧になることをしっかり理解してもらえようになりたい。 活動に参加した生徒に満足感を持たせるよう、問題点や対策を講じることを考えていく。
	高校2年	7	居心地いい集団	A	ポジティブな生徒との係わりが感じられる。 山頂に向かう登山ルートはいくつもある。全職員で目指すものを共有し、今後も頑張りたい。 目標と施策がつながっているのか、また結果がわかりにくい。
		8	授業ファースト	B	教師が知的好奇心を旺盛にするためには、毎日の業務で疲弊せず、ある程度の心のゆとりを持つことも大事である。 一時間一時間の授業を大切にしたい。学校教育の根幹であるから。 「やる気スイッチ」を入れることを、全教員が共有できるとよい。
		9	文武両道の継承	B	運動部であろうと無かろうと、頑張れば報われるという実例(ベストプラクティス)を示すことは、下級生に大きな影響を与える。 反省や教訓も含めて体験を共有したい。 困難なことにもチャレンジしていきやすい環境づくりも必要である。
	高校3年	10	生徒個々の進路設定に合わせた学力を身につけさせ、学年全体の学力の底上げを図る。 国公立大学100名合格の実現。	A	個々の生徒指導が充実したことで、進学成績が向上している。ただ、結果には厳しく評価することも大切である。 何のための大学に行くのか、何を学びたいのか、将来どうしたいのかを明確にして、高校3年を迎えてほしい。 常に生徒にとって最善の方法を探ってもらいたい。
		11	教養科学科にふさわしい三つ(志・人間性・知性)の土台を確立させ、人のために役立つ喜びのわかる生徒を育成する。	B	教育活動は教師の人的魅力で推し進められる。 生徒一人ひとりと丁寧に話し合うことは大事、今後も継続と充実を考えてほしい。 学校行事等が生徒の成長を促す機会となっている。
		12	学年団を中心とする、教員全員体制作りを目指す。	B	学年全体がチームとしてまとまることは生徒にとってもプラスとなる。 指摘された課題の改善へ向けての努力を期待したい。

教 科	国語	13	自らの目標に向かって主体的に学習に取り組む生徒の育成	B	<p>私学は建学の精神を生かして学習指導要領に準拠しながらも、特色ある教育課程を積極的に行っていくことが期待される。とりわけ、今回の教育課程改革は、新学習指導要領・総則にあるように、教科・領域等の「見方・考え方」、「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成」、「カリキュラム・マネジメント」、「学校段階等間の接続」等を総合的に捉えた枠組みが求められており、Society5.0時代に向けた社会に開かれた(子どもの)学びを実現していくためのチーム学校の構築や教師の役割の再検討が求められている。</p> <p>教科(部会)が教科固有の専門性に閉じて終わるのではなく、当該教科の専門性から「タテ」(中高大の学校段階)と「ヨコ」(各教科の関連性、総合的探究の時間)の観点から、全体のカリキュラムにどう組み込んでいくかを考える必要がある。そのためには、お互いの教科と他の教科の取り組みや課題を可視化し、関連付けていく作業を行うことから始めていただきたい。次年度にはこのことを意識した教科-全体のカリキュラムの可視化の取り組みを工夫してほしいと考える。</p>
		14	効果的な指導方法の開発と授業改善	A	
	(地歴・社会・公民)	15	基礎・基本の定着と学力の向上	A	
		16	進学実績の向上	A	
		17	教科指導力の向上及び大学入試改革・指導要領改訂への対応	B	
	数学	18	自ら学ぶ意識を持ち、主体的に学習に取り組む生徒を育成する。(指導に関する事柄)	A	
		19	教員の教科観の統一、授業内容・指導方法・評価方法を検討する場として、教科部会を機能させる。(組織に関する事柄)	B	
	理科	20	新入試に求められる思考力の育成	B	
		21	薬品の管理体制の強化	A	
	英語	22	生徒の学力向上のため、組織的な指導体制を確立させる。	A	
		23	各学年部における情報交換を活発にし、その情報を英語科全体で共有する。	B	
		24	大学入試改革についての情報収集を進め、高校1年生の指導に取り入れる。	B	
	保体	25	授業計画にそって共通理解の中、生徒の運動能力・体力の向上に努める。	B	
		26	新体力テストで優良校に入れるよう授業内での基礎体力づくりを充実させる。(男女ともに昨年逃した優良校入りを目指す)	B	
		27	授業だけでなく日常生活での挨拶など、礼節を重んじる姿勢を身につけさせる。	A	
		28	生徒がお互いにすすんで協力、助け合うことを身に付けさせる。	A	
		29	教科書の上から、自らが実践に移せるように知識の定着を図る。	A	
	家庭	30	授業を通して生活者としての問題意識を持たせ、広い視野に立ってものごとを見る姿勢を身につけさせる。	B	
		31	実技・実習を通して生活的自立のスキルを身につけ、協働の力を育む。また、ものづくりの喜びを知らせる。	A	
		32	生徒が充実して実習、製作に取り組めるように実習室の環境を整える。	B	
	芸術(音楽)	33	生徒が主体的になり、音楽的な活動に参加することができる。	B	
		34	生涯において音楽に親しんでいく素養、姿勢を築いていくことができる。	A	
		35	音楽の基本的な知識、技能や音楽を通じて様々な国の文化を知ることができる。	B	
	情報	36	生徒一人一人の好奇心を高め社会のリーダーとしての人材育成に必要な情報機器を、表計算による統計処理や情報整理、プレゼンテーションによる表現の道具として適切に活用できるように育成する。	A	
		37	情報の収集・処理・表現を通して広くコミュニケーション能力を養い情報社会に積極的に参画する態度を育てる。	A	

分	教務部	教務課	38	教務課から全教員への周知事項を徹底し、全教員が共通認識を持って教育活動を行ない、教育活動の円滑な推進を図る。	B	ICTの活用は効果的に進めてほしい。 目標に対し、施策が十分達成されているようである。
			39	教務課の業務の精選と効率化を図る。	A	改革姿勢は常に求められる。 業務内容が煩雑になっており負担も大きい。効率化が進められるようであれば考える。
			40	ボトムアップ型で教務課として教育現場の改善を提案する。	B	三学期制に向けては、その課題など情報をこまめに提案したい。 ボトムアップがうまく機能するように、常に意識してほしい。
		企画課	41	行事予定の見直しと発信方法について検討・提案を行う。	A	長期休暇中の過ごし方については、今後も検討してほしい。 具体的アウトプットが出ていることを課題。
			42	カリキュラム(教育課程)改訂に向けた準備を進める。	A	中長期のビジョンとの関連で目標を設定し、検証する観点を期待したい。 新しい学習指導要領に対する研究と対応は深めてほしい。 創意工夫を常に行える機能を働かせることを心掛けてほしい。
		国際交流課	43	国際交流プログラムを活性化させ、生徒に様々な機会を提供する。	A	私学の特徴となる国際交流については、一層の充実を図りたい。 グローバル化に応じて生徒たちも生きる力をつける必要がある。充実を図ってほしい。
			44	中・長期留学生へのケアの充実。	B	留学生へのケアについては、具体的な取り組みを充実させたい。 フォローアップができていないことは懸念される。
			45	スケジュールの視覚化と業務の共有。	B	情報共有は確実に行うべきである。 スケジュールの見える化は評価でき、今後も丁寧に継続してほしい。
		掌	生徒指導課	46	生徒の自主性、主体性の育成を目指した生徒指導。	B
	47			学校生活における基本的な生活習慣の改善サポート。	A	数値目標の継続と向上が図られている。 教員への負担が増すことにはなるが、声かけや見回りは徹底し、愛情のある対応をしてほしい。
	保健衛生課		48	健康生活に必要な自立的態度と、健康増進をはかる生活習慣の育成	A	生徒の小さな変化を見逃さないようにするとともに、生徒に寄り添う姿勢を大切にほしい。 2022年4月からは18歳成人となることも念頭に置いて、高校生の「心と体」の学びを支援する活動をカリキュラムに位置づけることを提案したい。
			49	感染症の予防及び対策	A	感染症対策は徹底して推し進めるべきである。 具体的な活動がスケジュールにビルトインされている。
			50	教育相談の充実	A	スクールカウンセラーの増員により、教育相談は確実に充実している。 スクールカウンセラーとの連携が密となっている。
	安全整備課		51	学校施設の日常時・非常時における防災安全体制の構築	B	防災対策の充実とメール活用の増進が望まれる。 南海トラフ地震に対する防災対策の国のガイドラインが3月に発表された。今後、県や市町の対策が出てくる。それらに合わせて様々な改定を進める必要がある。
			52	公共心・ボランティア精神の育成、校舎内外の保全、美観の維持	A	より多くの生徒へ波及することが期待される。
進路部	進路企画課		53	進路シラバスに基づいた志を高める進路指導計画の実践と進路指導室の活用促進。	B	中長期のビジョンとの関連で目標を設定し、検証する観点を期待したい。 進路指導室利用の利便性向上は、良い取り組みである。 評価項目が、実施だけで終わらないように工夫が求められる。
			54	テスト分析力の向上とフィードバックの仕組みの構築。	A	各種施策の活用に工夫が伺える。 分析とそのフィードバックをうまく活用し、成績が向上していくことが期待される。
		55	大学入試改革の情報収集と進路指導計画への迅速な対応。	A	新たに始まる大学入試共通テストの実施も迫ってきた。万全な準備をしてほしい。 小論文は作文技術のほか、自らの体験も必要になる場合がある。生徒に様々な体験をさせてあげることが大事となる。	

分 掌	進路部	進路指導課	56	進路シラバスに基づいた進路行事、進路指導の実施。	B	進路指導は生徒一人ひとりに丁寧に進めてほしい。 予定の遂行は良くできていた。
			57	大学進学の数値目標を達成する。	A	その時点で生徒が最良の選択ができるようにする姿勢も大切にする。 外部システムの有効な活用が見られる。
			58	大学入試改革への対策を行う。	B	新たに始まる大学入試共通テストの実施も迫ってきた。準備が万全となることが求められる。
	情報図書部	情報管理課	59	静岡県「ICTを活用した教育」推進計画を参考に、法人の新高校整備計画・情報セキュリティ基本方針・インフラ整備提案依頼書などに従った情報システムを構築していく。	A	中長期のビジョンとの関連で目標を設定し、検証する観点を期待したい。 Apple TV の活用や異常への対応も確実に推し進め、情報システムの模索も進んでいる。 ノートやタブレットは常時使える環境が望ましい。
			60	ICT環境の整備をし、各々の情報を活用する能力を高める。	B	次代を担う生徒たちは、ICTを駆使できないと不利益を被る恐れがある。生きる力として身に付けさせて上げたい。専門家の力を十分に活用したい。
		図書課	61	読書リテラシー、資料活用のための情報リテラシーの育成。	A	ビブリオバトルへの取り組みや頑張りには評価できる。今後も拡大させてほしい。
	62		生徒図書委員会活動の発展支援。	B	図書・資料の充実を可能な限り推進してほしい。	
	63		図書館利用活性化のための環境整備と広報活動を充実させ、年間利用の5%増をはかる。(前年度業務報告書資料統計参照)	A	読書の重要性の広報・啓発により、一層の図書館利用推進を図りたい。 良書の推薦は積極的に行う。 生徒の意見も十分反映させたい。	
	研修開発部	研修課	64	教員自ら授業に対する検証を行い、授業改善を図る。	A	指導力向上に対しては常に努力してほしい。 難易度が高い目標であるが、よくできている。 授業の360度評価の推進を期待する。
			65	他校訪問の呼びかけ、様々な校外研修について紹介する。	B	初任・若手教員の育成は喫緊の課題である。本年度の取り組みを一層充実させたい。 研修を通して参考にするべき点は積極的に導入を検討してもらいたい。 より積極的に他校との交流を進めるべきである。
		学び支援課	66	SGTの外部講師講座は、新しい講座を多く設けるようにし、体験を通して学ぶものから学術的なものまで広く提供するように努める。	A	外部講師の招聘は緊張感をもたらす上、専門的な観点からの話が聞ける。生徒には色々な世界を見せてあげることが大事である。 「学びの履歴」をプレゼンできることも今後求められるので、この観点からの学び支援も考えてほしい。
			67	SGT内部講師講座は、授業の枠を超えた分野の教養系講座をなるべく多く設置し、生徒の授業以外の学びを支援するように努める。	A	生徒の興味や関心を高める努力を続けてもらいたい。 常に創意工夫が必要なテーマであるが、改善しながらフォローアップを考えてほしい。
			68	一貫の生徒が6年間通じて参加出来る講座を設置する。	B	多数の講座を用意しており、質も高いと感じる。受講生の感想や成果を広報することも大切にしたい。 継続は力になる。一貫して学べる機会は大いにしたい。法律・会計・税務など進路選択の参考になる講座も有益と考えられる。
		事務局	総務課	69	財務状況の改善(計上済み予算の削減を図る)	A
	70			施設・設備の維持、管理の徹底(老朽化設備、備品への対応や安心安全の確保)	A	
	学務課		71	学務業務の適切な運用、業務効率化の促進。	A	十分評価できる内容となっている。
			72	高校:170人の単願受験者確保。中学:100人以上の受験者を得る。	B	生徒や保護者からの意見を反映し、今後にお役立てるようPDCAを回せていけることを期待する。
			73	Web出願システムの検討。	B	システム検討だけの目標に留まらず、施策や計画を十分見直し、今後に役立てられるものとして考えてほしい。